

第3 問題作成部会の見解

1 出題教科・科目の問題作成の方針（再掲）

- 歴史に関わる事象を多面的・多角的に考察，構想する過程を重視する。

用語などを含めた個別の事実等に関する知識のみならず，歴史に関わる事象の意味や意義，特色や相互の関連等について，歴史的な見方・考え方を働かせながら，概念などを活用して多面的・多角的に考察したり，課題の解決を視野に入れて構想したりする力を求める。『歴史総合，日本史探究』及び『歴史総合，世界史探究』では，「歴史総合」で学習したことから，それを基に「日本史探究」又は「世界史探究」で学習したことを問う。

問題の作成に当たっては，事象に関する深い理解を伴った知識を活用して，例えば，教科書等で扱われていない資料であっても，そこから得られる情報と授業で学んだ知識を関連付ける問題や，仮説を立てて資料に基づき根拠を示したり検証したりする問題，時代や地域を超えて特定のテーマについて考察する問題などを含めて検討する。

2 各問題の出題意図と解答結果

第1問 『地理総合／歴史総合／公共』の「歴史総合」第1問と同じ。

第2問 学習指導要領日本史探究1目標(2)に書かれた「我が国の歴史の展開に関わる事象の意味や意義，伝統と文化の特色などを，時期や年代，推移，比較，相互の関連や現在とのつながりなどに着目して，概念などを活用して多面的・多角的に考察したり，歴史にみられる課題を把握し解決を視野に入れて構想したりする力や，考察，構想したことを効果的に説明したり，それらを基に議論したりする力を養う」ことを目的とし，菓子の歴史を素材として，甘味料・洋菓子などの入手や普及の経緯を当時の社会的・経済的背景と関連付けて考えさせることをねらって，会話文・設問を作成した。その際，同3内容の取扱い(1)キに書かれた「衣食住や風習・信仰などの生活文化についても，時代の特色や地域社会の様子などと関連付け，民俗学や考古学などの成果の活用を図りながら扱うようにすること」に配慮して，同(2)ウ「様々な歴史資料の特性に着目し，諸資料に基づいて歴史が叙述されていることを踏まえて多面的・多角的に考察できる」かどうかを問うた。「全体を通して，受験者に思考を促す良問が多く，今後問題演習をしていく際に必要な要素を示唆しているといえる」と評価された。全ての小問において極端な正答率は出でならず，正答率・識別力において妥当だった。

第3問 学習指導要領日本史探究2内容A「原始・古代の日本と東アジア」を踏まえて作問した。とりわけ(3)に示された「古代の国家・社会の展望と画期」について，諸事象の解釈と画期を把握し，中国大陆・朝鮮半島との関係も関連付けて考察し，律令体制の整備とその成果や文化的な影響関係について，外交と文化の関わりをテーマとした。中国起源の文化との関係にも配慮しながら具体的な史料の読解・分析と高校での学びとを結び付け，思考する過程を重視する設問とした。「全体を通してテーマについて整理・理解ができている受験者にとってはシンプルかつ解答しやすい問題が多かった」と評価された。全ての小問において極端な正答率は出でならず，正答率・識別力において妥当だった。

第4問 学習指導要領日本史探究2内容B(2)ア(ア)にある「中世の特色を示す適切な歴史資料を基に，資料から歴史に関わる情報を収集し，読み取る技能を身に付けること」を踏まえ，文字資料と絵画資料を活用して思考させる問題を作成した。またB(3)ア(ア)に「武家政権の成立と展開，産業の発達，宗教や文化の展開などを基に，武家政権の伸張，社会や文化の特色を理解す

ること」とあることから、鎌倉時代の御家人を素材とする問題を用意し、中世武士の軍事的側面だけでなく、社会的・文化的側面に関しても理解できているかどうかを問うた。そしてC(1)の「近世への転換と歴史的環境」について熟考を求める思考問題（仮説とそれが成り立つ前提を考えさせる）も盛り込んだ。全ての小問において極端な正答率は出ておらず、正答率・識別力において妥当だったと考えられる。

第5問 学習指導要領日本史探究2内容C「近世の日本と世界」のうち(1)ア(ア)「織豊政権の政治・経済政策，貿易や対外政策などを基に，中世から近世への時代の転換を理解すること」及びイ(イ)「村落や都市の支配の変化，アジア各地やヨーロッパ諸国との交流の影響などに着目して，中世から近世の国家・社会の変容を多面的・多角的に考察し，表現すること」，(2)ア(ア)「近世の特色を示す適切な歴史資料を基に，資料から歴史に関わる情報を収集し，読み取る技能を身に付けること」などを踏まえ，近世の村を主な素材として，近世の政治・経済・社会・文化の全般に関する内容的・概念的な理解を問うとともに，関連する資料を基に，情報を読み取る能力を問うことをねらいとした。多くの小問において極端な正答率は出ておらず，正答率・識別力において妥当だった。問2及び問4については，正答率が8割を上回っているが，成績中下位者を識別する問題となっている。

第6問 学習指導要領日本史探究2内容D「近現代の地域・日本と世界」(2)ア(ア)「近代の特色を示す適切な歴史資料」から「歴史に関わる情報を収集し，読み取る技能を身に付ける」及びイ(イ)「資料から読み取れる情報から，近代の特色について多面的・多角的に考察し，仮説を表現する」を意図し，広く読まれた小説や漫画の歴史的な読み解きを求めた。また，(3)「近現代の地域・日本と世界の画期と構造」から近代の文化の特色や大衆社会の形成，現代の政治や社会の枠組みに関する理解を問うた。3内容の取扱い(2)ウ「多面的・多角的に考察できるよう，資料を活用する技能を高める指導を工夫すること」を踏まえて，資料活用の技能を測ることをねらいとした作問を行った。ほぼ全ての小問において極端な正答率は出ておらず，正答率・識別力において妥当だった。問4については，正答率が3割を下回っているが，最上位者を識別する問題となっている。

3 自己評価及び出題に対する反響・意見等についての見解

出題のねらいについては，「各時代の特色とその変遷，対外的な関係等について，諸資料に基づいて総合的に問う視点が総じて明確であった。各設問からは，知識に偏ることなく，諸資料を活用しながら思考力・判断力・表現力等をバランス良く問うための工夫が感じられた」との評価をいただいた。問題文の表現については，「資料に極端に難解なものではなく，資料が現代語訳や書き下し文に変更されるなどの配慮がなされ，注釈もバランスよく付されていた。人名や事件名，制度の名称など，歴史用語はなるべく使用せずに，理解度を測る表現上の工夫がなされていた」との評価をいただいた。総括的な評価としても，「学習指導要領の趣旨を踏まえ，「知識及び技能」，「思考力・判断力・表現力等」の観点を中心に発問させて解答する良問が多く，授業や探究活動を通じて身に付けた資質・能力の到達度が明確に測られる識別力の高い良問が多かった」，「提示された資料は全国様々な地域のもものが活用されており，授業での活用という視点でも魅力的なものが多かった」との評価をいただいた。今後もこうした評価をいただけるよう継続して努力していきたい。一方，「抽象度の高い設問などでは，より受験者に理解しやすい用語や表現の工夫が求められる部分もあったと思われる」や「魅力的な資料だからこそ，問い方の工夫が試されるとも感じる」，また「会話文を参照させたいという意図があったにしても，正答を選ぶプロセスが込み入っていて」や，「ワークシート自体が解答に必要なかが疑問を抱くような出題」があったとの指摘もいただき，より一層，多様な

受験者が十分に力を発揮し、知識・技能や思考力・判断力・表現力等を適切に評価できる問題となるよう、表現や構成等に配慮していきたい。

第1問 『地理総合／歴史総合／公共』の「歴史総合」第1問と同じ。

第2問 問1は、近世資料を適切に読解し、資料の社会背景を読み取ることができているかを問うた。「会話文に関連した知識と資料を読み取り、合わせて判断する良問」と評価された。問2は、近代史に関する資料から適切に情報を引き出し、資料にみられる事象の要因となった出来事を読み取ることができているかを問うた。「思考力・判断力・表現力等が求められる良問」と評価された。問3は、古代の貴族のあり様について、宗教・建築・文化など種々の側面から多角的かつ総合的に理解できているかを問うた。「平安時代の貴族文化や中世の禅宗文化に関する基本的な知識が求められた」と評価された。問4は、中世の宗教と外交・貿易との関係について、時代による変化を踏まえて事象を把握できているかを問うた。「菓子が普及した背景として適当かどうかを判断する思考力・判断力・表現力等が求められた」と評価された。問5は、設問全体の総括として、リード文と高校での学習を組み合わせる筋道だった判断ができるかを問うた。「多彩な資料を活用しながら思考させる共通テストらしい良問」と評価された。

第3問 問1は、弥生時代における倭人社会と東アジア諸地域の関係について理解できているか、またその知識を基に遺物がもたらされた年代を正しく判断できるかを問うた。「中国史書にある弥生時代の朝貢の記録や中期古墳の出土品などに関する基本的な知識が求められた」と評価された。問2は、8～9世紀の日本と唐、新羅との政治的な関係とともに、人的な交流や交易の実像について理解できているかを問うた。「主に奈良時代の朝廷の外交や政治に関する正しい知識と理解が求められた」と評価された。問3は、「高麗」と表記される国名が認められる複数の史料から、日本の外交姿勢や時代を読み取り、「高麗」がどの王朝のことか正しく判断できるかを問うた。「渤海と日本の通交に関する知識と関連させて判断する思考力・判断力・表現力等が求められた」という評価とともに、本問で引用した資料1については、「古代の東アジア秩序における呼称が題材となっており、日本の律令国家と東アジア諸国の関係性を考える上で学びの広がりがある資料であった。」という良い評価を受けた。問4は、律令国家の軍事的政策とその変遷を理解できているか、また8世紀末の兵制改革と、そこにおける大宰府（西海道）の位置付けや重要性を理解できているかを問うた。「刀伊の入寇に関する知識や、平安時代初期の健児の制と軍団の廃止を関連付けて理解しておくことが求められた」と評価された。問5は、螺鈿紫檀五絃琵琶や阿弥陀聖衆来迎図から、図の性格を読み取った上で、メモとの時期的な整合性を正しく判断できるかを問うた。内容や図は基本事項であるという指摘はあるものの「形式的には新傾向」である点は評価された。

第4問 問1は、武家政権の制度・政策に関する知識から鎌倉時代の御家人がもつ多面的な性格を問うた。選択肢の内容から、文化史や室町時代の知識も問う出題であるとの評価があった。問2は、蒙古襲来の経過と幕府・荘園領主の関与についての理解を問うた。『蒙古襲来絵詞』という有名資料の一場面と、笠間時朝という地方御家人の文書を組み合わせることで、「共通テストらしい良問」と評価された。問3は、室町・戦国時代の政治史・宗教史・対外関係史に関する複数の基礎知識を問うことで、歴史的事象の相互のつながりや関連性を問うた。資料内の「魔法」がキリスト教である点が興味深い魅力的な資料であるが、出題形式にもう一工夫欲しいとの評価を得た。問4は、統一貨幣の鑄造が行われた背景・根拠を仮説の前提として選ばせることで、歴史的事象の背景・原因・結果・影響等も含む内容的理解と、思考力を問うた。「正答を選ぶプロセスが込み入って」いる、「リード文の工夫を求めたい」などの意見があった。問5は、中世の各時期における武士の在り方について、歴史的事象の時系列・推移に着目してその性質

や役割などの変容を問うた。「正誤を判断する要点が簡潔にまとめられていた」と評価された。

第5問 問1は、近世の政治・社会（土地制度）の成立に関する知識・理解を問うた。「近世の支配体制の基本である石高制の理解が求められた。誤文の判断が容易であり、取り組みやすい問題」と評価された。問2は、江戸前期の村掟を事例に、近世の社会・政治（村落社会・支配）に関する知識・理解を問うた。「17世紀の村掟を現代語訳した資料を読み取り、選択肢の文との整合性を判断する問題」と評価された。問3は、江戸幕府による農村政策に関する知識・理解を、時系列・推移を踏まえて問うた。「本百姓体制維持のために幕府が行った施策の内容と年代に関する正しい理解が求められた」と評価された。問4は、近世の自然・社会（災害、石高）に関する知識・理解を問うた。「天明期の浅間山噴火について理解と、資料文の具体的な情報から農村の状況を考察する思考力・判断力・表現力等が求められた」と評価された。問5は、近世の村の特徴やその変容についての知識・理解と、グラフを読み取る力を問うた。「問1から問4までの資料やメモの内容を踏まえて考察内容を判断する共通テストらしい良問」と評価された。

第6問 問1は、西南戦争後の政治・経済状況について問うた。「日本の台湾・朝鮮への植民地支配の時期や、1870年代後半の政治・経済の流れに関する正確な理解が求められた」と評価された。問2は、戦時末期の朝鮮半島情勢の知識及びそれに関する資料の読解力を問うた。「丁寧な資料の確認と、戦時中に関する知識が問われた」と評価された。問3は、近現代のマスメディアの状況について、年代・時系列を理解できているかを問うた。「大衆文化としての新聞、戦中の統制、戦後文化などへの理解が求められた」と評価された。問4は、占領期の政権と政策・諸事件の内容を理解できているかどうかを問うた。「占領政策の転換に対する正確な理解が求められた」と評価された。問5は、1970年頃の漫画を基に生じる疑問と疑問解消に最も適当な方法を判断できるかを問うた。「資料、注釈からの判断とともに、2000年代の小泉内閣までの理解が求められ」、「提示された資料を含め、興味深い出題」と評価された。

4 ま と め

今年度の平均点は、56.99点であった。授業を通じて学んだ知識と初見資料から読み取れる情報とを併せて考察させる問題や、生徒自らが作った仮説を資料に基づき検証するような問題、時代や地域を超えて特定のテーマについて考察する問題など、新課程の趣旨を踏まえて作問に努めた。会話文の中に未知の歴史事象を織り込んだり、多様な形態の資料など多くの情報量を処理する出題形式を採用したが、文字資料をできる限り現代語訳して示すことによって、おおむね標準的な問題を作成できたものとする。来年度以降も、以下の諸点に留意しながら、受験者の学力を適切に評価できる問題作成を進めたい。

- (1) 高等学校教育の範囲と水準に深く配慮をしながら、標準的な問題を作成する。
- (2) 高校現場での授業実践にも良いメッセージとなるような出題上の工夫をする。
- (3) 文字資料だけでなく、画像・地図・表など多様な資料を提示しながら、歴史事象に関する深い理解に至りうるような問題の作成に工夫を凝らす。
- (4) 授業や探究活動を通じて身に付けた資質・能力の到達度を明確に測れるような出題に努める。